

令和7年度 清水特別支援学校 学校関係者評価書

- (問) ・学校評価書(校務部、学部の総括資料も含む)の成果と課題が適切かどうか。
・成果と課題(保護者の要望を含む)を踏まえた今後の改善策・向上策は適切か。
・スクールプランを踏まえた内容になっているか。

(意見を聞いた方)

学識経験者、島寺地区自治会長、PTA会長、保育関係者、福祉関係者、同窓会会長

(意見欄)全体を通して

- ・すべての重点目標において高評価であり、教員の本年度の教育活動の頑張りや努力の結果だと感じた。
- ・保護者へのアンケートに関して誠実に回答しており、ひとり一人の子どもたちに真摯に向き合っている姿勢が伺える。

1. 教育課程・学習支援

- ・少人数の子どもの学びを丁寧に見とれていることがわかる。
- ・校内研修等によって、教員はどのように変容したのか。また、交流及び共同学習が普段の授業改善にどう結びつくのかが具体的に教えてほしい。

2. 児童生徒支援

- ・体育大会やしみずっこのつどいが縮小化していくようで寂しさを感じる。
- ・それぞれの子どもの特性はあるだろうが、刺激になることを避けていくだけでなく、そこを乗り越えることで成長することもあるのではないか。
- ・人前で発表することが負担になる子どもたちが増加してきたという背景についても触れ、その上で手立てを考えたという記述だと説得力がある。
- ・コロナ禍以前のように、体育発表やしみずっこのつどいは、卒業生やその保護者も参観できるようにしてほしい。

3. 進路支援

- ・事業所見学をもっと増やすと、参加者が増えるのではないか。
- ・保護者から事業所に直接問い合わせた方が保護者の都合に合わせやすい場合があるので、そういった情報をもっと学校から保護者に伝え周知するとよい。

4. 学校保健

- ・子どもによっては環境の変化に弱い。検診もそうだが、避難時に地区の避難所で過ごせるかどうか不安である。学校が避難所になっているとありがたいが、その点の議論は進んでいるのか知りたい。

5. 交流及び共同学習

- ・地域の学校や居住地校との交流や共同学習に長らく取り組み、もう学校の文化といえるほど実践を重ねてきているのはすばらしい。
- ・公民館や診療所に作品を展示するのは知っているが、やはり実際の子どもの様子がわかるのがいいので、島寺地区の祭りに参加したりして直接、住民と交流するといった機会をもっと設定するとよい。特別支援学校がどこにあって、どんな子どもたちが通っていて、教員がどんな支援しているのかなどへの理解も進み、親しみがわくと思うので、できることは協力したい。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

- 清水特別支援学校をもっと知ってもらい、多様な意見を吸い上げ、魅力ある地域の学校として行く必要がある。
- ・広報活動も工夫し、交流及び共同学習がしっかりと子どもたちの学びに還元されるよう、取り組んでいきたい。
 - ・創立50周年を節目とし、これまで以上に開かれた学校としての意識を教員間に醸成していく。
 - ・学校評価書は、一般の人(学校関係者以外)が読んでもわかる表現にし、改良していく。